

令和4年度の研究のまとめ

研究主題 質の高い幼児教育の実現に向けて

～つながる ひろがる 札幌市の幼児教育～（市立幼稚園、認定こども園共通）

研究副主題 多様な教育、保育環境における幼児期にふさわしい生活のために（市立かっこう幼稚園と共通）

認定こども園にじいろの教育課題に応じた研究主題

遊びが広がり、思いが伝わり合うための援助と環境構成

今年度は「質の高い幼児教育」の実現に向けて、多様な教育、保育環境の下で園生活を送る子どもたちの「安心感」を探り、遊びの広がりや思いの伝わり合いを意識した保育の実践をしてきました。小グループでの事例検討会の中で、「安心感」を感じながら遊びを深めていく姿に向かうために必要な援助や環境構成について考えてきました。

遊びの
エピソード
より

氷づくりが楽しいね！（3～5歳児を中心とした異年齢交流）

ある寒い日の夕方に数名で始まった氷づくり。水を入れた牛乳パックが翌朝、凍っていることがきっかけとなり、氷づくりに興味をもちました。

夕方の遊びから

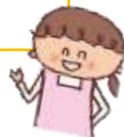


異年齢のつながり



- ・成功体験がまた作りたい思いをもつことにつながりました。
- ・凍っているものが気になり、戸外遊びを自分で選び、意欲的に遊ぶ姿がみられました。
- ・パックを開けられない年下の子に対して、年上の子が代わりに開けてあげるなど異年齢での関わりが増えました。

- ・寒い日が続いているため、氷づくりを提案。すぐに使用可能な牛乳パックを用意しました。
- ・次の日、登園してすぐに目の付く場所に保管しました。



クラス活動*5歳児：氷の実験*



- ・楽しかった経験をクラス活動時でも生かす姿がみられました。
- ・雪を混ぜたら早く凍る？お湯を入れたらどうなる？など素材を変え、遊びを発展させていました。



乳児クラス・2歳児クラスとのつながり

- ・できた氷をもらってうれしい、氷に興味をもち、真似をして同じように作ってみたいと思う気持ちがみられ、保育者と一緒に氷という素材に親しむ姿につながりました。



～子どもたちの“安心感”を支えるために



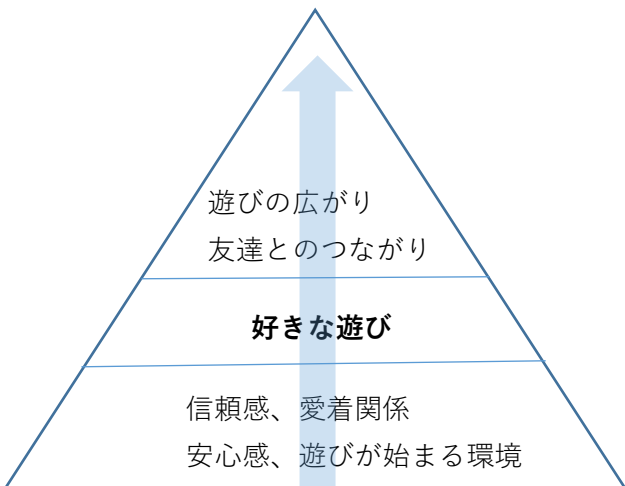
◎今年度の研究を通して



保育者や友達との関係、何度も繰り返しできる保育室の環境や時間の保障など子どもたちにとっての“安心感”に改めて気づきました。

また、“安心感”を意識した保育を行うことで、安心を土台として子どもたちが意欲的に遊んだり、何度も挑戦したりして遊びが広がり、異年齢の友達とつながる姿がみられています。

今後も“安心感”を意識しながら、さらに遊びを深めていけるよう、研究を進めていきます。



次年度（令和5年度）は、かつこう幼稚園（豊平区）と合同で研究をしていきます。

にじいろでは、多様な教育、保育環境の中で“安心感”を感じながら、遊びをさらに深めていくための保育について研究をします。

詳細については、次回のにじいろ研究だよりでお知らせします。

遊びがひろがり、思いが伝わり合うための援助と環境構成

子どもたちが日々、遊び、生活している中で、どんなところに「安心感」を感じているのかに注目し、保育研究を行っています。様子の一部をご紹介します。

らっこ・うさぎ組(乳児)

家庭から新しい世界へ...

保護者と離れ、新しい場所で生活を送る不安から、初めは泣いて過ごす時間がほとんどだった新入園児の子どもたち。好きな遊びを探り一緒に遊んだり、散歩で気分転換をしたりする中で、寂しい気持ちを受け止め、楽しい気持ちに共感するなど子どもたちの気持ちに丁寧に寄り添いながら過ごしてきました。時には、保育者が1対1で関わり、気持ちを十分に受け止める時間を設けることで、少しずつ笑顔で過ごす時間が増えました。



ここが安心感に...♡

- ・いつもいる保育者がわかる。
- ・気持ちを受け止めてもらえる。



ここが安心感に...♡

- ・いつもいる友達がわかる。
- ・生活の流れがわかる。

気持ちを受け止めてくれる人がいることや、園での生活の流れが段々とわかったことが安心感に繋がっていきました。初めは安心できる保育者の近くで周りの様子を伺いながら遊んでいた子どもたちも、最近では、周りの友達に意識が向き、自分から友達に笑いかけたり、友達の遊びを真似てみたり、保育者に思いを伝えようと一生懸命に何かを話し、訴えかけてくれたりと思いを十分に表しながら過ごしています。園が安心できる環境となったことで、水遊びや制作など新しい遊びにも意欲的に取り組んでいます。

こあら組(2歳児)

“片付け方がわかる!という安心感”

新しい教室になり、物の片付け方や置く場所が大きく変わったこあら組。新しい玩具に興味をもち、自分たちで出して楽しく遊ぶ様子がみられます。出してはみるものの、片付けの時間になると「いやだ!」の声。そこで、人形やミニカーなど小さな玩具は小分けのケースに一つずつ入れて片付けられるようにしました。片付ける場所がわかりやすくなったことで、意欲的に取り組む姿が増え、たくさん褒められさらに意欲をもって片付けに取り組めるようになってきました。



ここが安心感に...♡

- ・片付けの場所がわかる
- ・片付けも遊びになる。片付けが楽しくなる。



ここが安心感に...♡

- ・片付け方がわかりやすい。
- ・次の活動がわかる。
- ・自分でできた達成感、自信。

「片付け」という言葉を聞いただけで、嫌がる様子がありましたが、洗濯ばさみで衣類を吊るしたり、収納かごをテーブルに出して目につきやすくしたりして片付け方をさらにわかりやすくしました。また、保育者も次の楽しい活動を話し、終わった後にみんなの前で頑張ったところやよかったことを褒めていきました。みんなから褒められることが嬉しくて喜び、「最後まで頑張った」達成感も味わうことができました。できた達成感が次への意欲につながり、楽しく片付けることも身に付いてきました。

少しずつ関わりが増えてきたことで、異年齢で親しみも出てきました。らいおん組の子どもたちを中心に年下の子のお世話をしたり、わからないことを教えてあげたりする姿が増えてきました。また、年下の子もらいおん組の子に憧れをもち、運動会で取り組んだよさこいを教えてもらい、朝や夕方の時間に一緒に踊って楽しむ様子もみられています。

ここが安心感に...♡

- ・助けてくれる、頼ってもよいと思える信頼関係。
- ・年下の友達をかわいい、関わりたいと思う気持ち。

ぱんだ組(3歳児)も仲間入りです。園庭で遊ぶことには慣れていますが、まだ他クラスの友達との関わりは少なく、安心できる保育者のもとで遊びながら周りの様子を伺っていました。だんごむし好きのぱんだ組の子どもたちのもとへ大きいクラスの子がだんごむしを捕まえてきたことをきっかけに一緒に虫探しを楽しみ、交流する場面も増えていきました。

ここが安心感に...♡

- ・安心できる保育者がそばにいる。
- ・年上の友達に対する憧れ。
- ・興味があるもの、好きなもの(だんごむし)の共有。

おもしろそうだな。やってみたいな!

一緒にやってみようよ!